

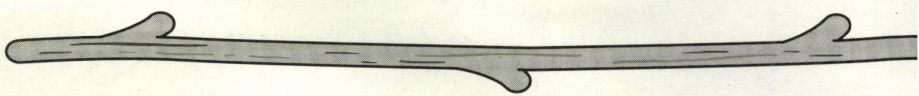
祖父母の会の記念撮影

前原 寛

九月には十五夜があります。年によって十月の時もありますが、今年の十五夜は九月二十二日です。この時期には、相撲や綱引きが盛んに行われます。

こう書くと、「おや?」と思われる人が多いのではないでしょうか。「十五夜と相撲?」どんな関係があるのか。十五夜はお月見じゃないか」という疑問をもたれると思います。

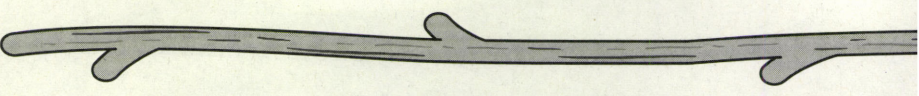
確かに「十五夜はお月見です」と言いたいところですが、私のいる鹿児島地方では、十五夜という相撲や綱引きなのです。十五夜は、気候に恵まれると明るい月夜になります。だからでしょうか、月を見るのではなく、月の明るさの下で、相撲を取ったり綱引きをしたりするのが、鹿児島地方の習わしになっ



ています。いかにも薩摩隼人らしい武骨な風習ですが、現在でもしっかり根付いていて、十五夜の時期は各地で相撲や綱引きの行事が行われています。

九月には敬老の日もあります。私のかかわっている保育園では、敬老の日にちなんで、「祖父母の会」を実施しています。おじいちゃん、おばあちゃんたちが集まっていたら、ちょっとした行事をするのですが、その時によく相撲を取ります。といっても園児たちですから本格的な相撲にはなりません。が、相撲のまね事であっても、おじいちゃん、おばあちゃんたちは喜んでくれ、声援を送ってくれます。そんな中で、他県の出身の方から、どうして相撲を取るんですか、と尋ねられることがあります。思いがけない風習に出合った驚きがあるようです。

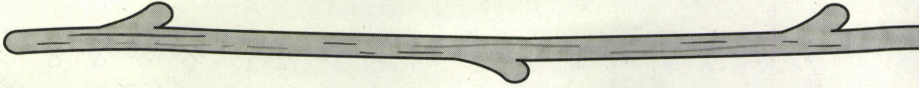
さて、「祖父母の会」では、呼びかけの範囲に気を配っています。というのは、祖父母への呼びかけは保護者を通じてもらうのですが、ただ案内してくださいというと、同居している祖父母だけになったり、父方が母方がどちらかだけへの案内になったりしがちなのです。また、このような行事に参加するのは一人だけと思い込んでいる場合もあります。祖父母は、父方と母方を合わせると四人いるわけですから、その全員への呼びかけをお願いします。もちろん、どここの家庭でも四人の祖父母がいるとは限りませんし、いても近くに



住んでいるとは限りません。しかし、案内してもらつくと、かなり遠方からでも、当日の参加があつたりします。

それから忘れてはいけないのは、曾祖父母です。園児の祖父母は多くが50代、60代です。中には40代もいます。長寿社会ですから、さらにその親の世代にも、ご健在の方が多くいらっしゃると思います。「祖父母の会」という名称ですが、曾祖父母も案内の範囲に含めていただくように、保護者にはお願いします。ひ孫見たさに参加される方が結構いらっしゃるので、園児一人につき数人が参加する場合もあります。

「祖父母の会」で必ず行つのが、写真立て作りです。おじいちゃん、おばあちゃん全員に、孫やひ孫と一緒に、写真立てを作ってもらいます。デザインは毎年変わりますが、簡単に作れるものです。というのも、(曾)祖父母一人ひとりと園児との記念写真を撮っているからです。先に述べたように、(曾)祖父母が何人が参加している園児もいますので、参加者の数だけ写真を撮影しています。インスタントカメラを使うと、その場で現像できます。行事が終わった時には写真立てに孫やひ孫との写真を飾り、持って帰ってもらいます。写真立ては作っても、後日現像した写真を渡すのでは楽しみが半減してしまいますので、インスタントカメラを使い、その場で写真を飾ってお渡しするのです。



このやり方を始めて二十年以上になりますが、非常に喜ばれているので現在でも続いています。参加者の声を聞いてみると、写真はたくさんあるけれど、孫やひ孫とだけで撮った写真は意外に少ないと言われます。また、写真はあっても、アルバムにしまいこまれています。その点、当園のものは、持ち帰ったまま飾ることができるので、それがうれしいとのことです。

そう言われれば確かにそうです。子どもの写真は、ビデオもそうですが、親が中心になって撮り、親が保存しています。(曾) 祖父母が自分で撮ることは少ないと思います。また、同居していれば写真もたくさんあるでしょうが、離れていると、意外に孫やひ孫とだけの写真は少ないかもしれません。ましてそれを飾っておくことまでは、なかなかしないでしょう。

そのようなわけで、「祖父母の会」では、園児との記念写真をたくさん撮ることにあります。それが楽しみで毎年参加する方も大勢います。「祖父母の会」は、そんなちよっとしたこと喜んでもらえ、当園に親しみをもってもらえる行事になっています。

ちなみに、いまではデジタルカメラを使い、その場で印刷しています。時代の流れで、手軽にプリンターで印刷ができるようになりましたから。

(鹿児島国際大学准教授・元安良保育園園長)